

インターネットでの旅行申し込みの際はよく確認を!

インターネット上の旅行予約サイトでの予約は手軽で便利であることから、利用する人が年々増加しています。旅行予約サイトには、他の旅行会社の旅行プランの比較・紹介のみを行うものもあります(場貸しサイト)。このようなサイトで申し込みをした場合は、契約先はそのサイトではありません。またサイトが海外事業者である場合もあります。何かあった際に連絡が取れない等のトラブルも起きています。対面での契約ではない分、自分で契約内容を十分に確認することが必要です。

【事例】 インターネットで格安航空券を検索し、旅行会社のサイトから大人2人分を申し込み、6万円を振り込んだ。航空券は出発の3日前に届く約束だったが、旅行前日になっても届かず、旅行者に何度も電話をしているが誰も出ない。しかたなく、直接航空会社に確認したところ、「予約はあるが業者からの入金がないため発券できない」と言われた。

【消費者へのアドバイス】

▶サイト運営事業者の基本情報を確認

①名称②住所③代表者の氏名④旅行業登録の有無

▶問合せ先の確認

①問合せ連絡先(電話番号、メールアドレス)

②受付可能時間③受付可能言語

▶契約条件の確認

①契約当事者・形態(場貸しサイトの場合は実際の契約先が違う)②旅行代金、支払方法

③キャンセル条件④その他の契約条件

契約・取引に関し不安があれば、消費生活センターにご相談ください。消費者ホットライン 局番なしの188

消費生活相談を実施しています。月~木曜日 10:00~12:00、13:00~16:00 問合せ 松伏町消費生活センター(環境経済課内) ☎991-1854

➔ 人権それは愛♡

一人は仲間のために

「おい、何でお前がこんな所に来てんだ。よんでないぞ。」
 このような言葉はよくきく。ぼくも言われた事がある。三年生のころぼくは一度大阪へ行き、四年生のころ元の学校へもどっていった。ぼくはドキドキしていた。なぜなら一度いた学校にもどるなんて初めてだからだ。学校に着いた時、むかしの友達が「なんでもどってくるんだよ。」と言った。相手は軽いジョークで言ったのかもしれない。しかしぼくはいやな気分になった。きずついた。なんでこんな事をいうのだろう。相手はうれしいのかもしれない。しかしってはいけない事だ。今、世の中でいろいろな事が起こっている。高校生の方がバスジャックなどを行っている。これは自分が悪いと思っていないと思っているのかもしれない。いわゆる「自己中心」なのだ。自分がよければそれでいいのだ。そして「一人は仲間のために。」そんな気持ちが絶対に大切である。

例えばある人がいじめられている時その人を助けられる

か。ぼくはきっと無理だと思う。なぜなら、その人を助けたら自分もいじめられるのではないだろうか。そんな心配があります。しかしそれはいじめている人はあまり変わらない。それはあたりまえの事である。しかしそれができていない。人には、いじめていい理由、いじめられていい理由などどこにもない。みんな自分が平和に生きて楽しく毎日を送る。それが一番である。今、ぼくはいじめられている人に言いたい。もし今度いじめられたら笑ってみよう。心の中から明るく暗いからいじめられるんだ。明るく生きよう。そしていじめられている人に言いたい。いじめられている人の気持ちを考えよう。そして自分はみんなのために生きよう。他の人が幸せになれるように。

人権作文集「こころ」より

問合せ 教育文化振興課 ☎991-1873

企画財政課 ☎991-1815

町長コラム

めったにない怒り



鈴木 勝

私は、めったなことでは「怒り」をあらわにしない方である。憤りを感じるような事でも逆から見れば、心が穏やかになることが多いからである。人に怒りをぶつけられた時は、この人の性格なんだと理解すれば済むことである。

しかし、こんな私にも憤りを感じる事が3つある。1つ目は、タバコの吸い殻である。除草作業を行い、刈り取った草の中にタバコの吸い殻が混ざっていると、その草を有機肥料として再利用することができないのである。タバコを吸われる方は、ぜひ

携帯用灰皿を持っていただきたい。

2つ目は、犬の糞である。田畑のあぜ道などでは、持ち帰らないでそのままにしてあるのをよく目にする。機械で草刈りをすると、犬の糞が機械に巻き込まれ、顔に飛び散ることがある。決して田畑の肥やしにはなるものではなく、農家の方は困っているので、どのような場所でも犬の糞は持ち帰るようにしていただき、田畑にゴミを捨てないでほしい。

3つ目は、個人的なことではあるが、現在の車のヘッドライトである。以前はガラスであった物が、現在は強化プラスチック系の物となっている。6年程経過するとくすんでしまうのである。車を長く愛用したい私にとっては許せないことであり、経済を循環させるためだと理解する逆転の発想にはどうしてもなれない。